

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	よろず保育園
活動期間	R7.1.14～2.19
クラス名(年齢)	ももぐみ(3歳児)
年間テーマ	水

1.活動テーマ

<テーマ>

おうちごっこ

<テーマの設定理由(子どもの姿)>

ままごとの道具を消毒しており、使えない間おままごとで遊べないのは悲しいという子どもの声を拾い、画用紙やアルミホイル等材料を使い自分の使いたい食器を作る。

2.活動スケジュール

R7.1.14 食器をつくろう

R7.1.20 おうちごっこをしよう

3.活動のために準備した素材や道具、環境の設定

はさみ、のり、セロハンテープ、画用紙、アルミホイル、廃材、ガムテープ
マーカー等

4.探究活動の実践

<活動内容>

さくら組と8名ほどのグループを作り家族になる。家の様に仕切りがあり自分たちの空間になっている。必要な家具、食器などを段ボールや画用紙で作る。どんなものが欲しいのか家族ごとに話し合う。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

子どもの言葉・姿	写真
<p>R7.1.14 どうしたら食器を作れるかな？</p> <p>「僕は鍋作る」「これは美味しいご飯の作り方が書いてあるの」と自分の家にはどんな食器があるのか考えながら作る。</p> <p>自分の思うままに切ったり、貼って、分からない時は保育士に「どうしたらいい？」と聞いて作る子もいる。</p> <p>「小さすぎた」「大きくなった」と大きさを比較する。</p> <p>底を作るのを忘れて「これじゃ下から出ちゃうね」と水の性質について理解。</p>	 
<p>完成したものを皆の前で何を作ったのか発表。</p> <p>「これすごい」「使いたいな」と皆で使おうと決めたももさん。使う前に「〇〇くん/ちゃん、使っていい？」と聞いてから使う。さくらさんとおうちごっこになってももさんが作ったんだよ」と一緒に使う。</p>	

5.振り返り(振り返りによって得た保育者の気づき)

ない物を1から考え作るとは大人でも難しいが、何が使いたいのか、家には何があるのかを思い出していた。どんなふうにはサミを使ったらどんな形になるのかどうしたらこぼれないのか等性質について無意識に理解していた。

子ども達の力で作った事でいつもより嬉しそうに使っている様子が見られた。

誰が作ったのかで「貸して」「使ってもいい？」と素直に言えるようになった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	よろず保育園
活動期間	R7.1.20～2.19
クラス名(年齢)	さくら組(4歳児)
年間テーマ	水

1.活動テーマ

<テーマ>

おうちごっこ

<テーマの設定理由(子どもの姿)>

縦割り保育(3・4歳)で部屋を分け、家とする。各家で給食・午睡を行う。段ボールや空き箱を使用し、必要なものを製作する。同時に毎日3種類の種(遊び)を保育者が用意し、行きたい遊びに参加する。

2.活動スケジュール

R7.1.20 おうちごっこ 家づくり

R7.2.3 不思議の種を咲かせよう

R7.2.4～2.19 選択遊び

3.活動のために準備した素材や道具、環境の設定

段ボール、空き箱、トイレットペーパーの芯、ガムテープ等
(各家に)マーカー、のり、粘土、粘土板等

4.探究活動の実践

<活動内容>

ももぐみとさくらぐみが一緒に過ごすことに…。「何をして遊ぼう?」「おうちごっこをしよう!」最初は8つのグループから、もっと大きな家を作りたい、色々なものを作りたい、そんな気持ちが芽生え、4つの家が誕生。日替わりでリーダーを決め、同じ家の家族で協力して生活する。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

子どもの言葉・姿	写真
<p>R7.1.20 ももさんと何して遊ぶ?</p> <p>ももぐみさんと部屋が合体し、一緒に過ごす事になり、嬉しそうなさくらさん。もも組が作ったという皿や箸、コンロ等を見て、家には何があるのかを真剣に考えた。様々な段ボールや空き箱を見て、「これは冷蔵庫になりそう」「これとこれをくっつけばいいじゃん」と意見を出し合う姿が見られる。</p> <p>最初はただ箱をくっつけただけだった物に、「ボタンをつけてみようと思ったGさんは段ボールを丸く切ったものを貼り付け、ボタンがつけられた。さらに、そのボタンにKさんが絵を描いた。さらにドアも開くようになり、電子レンジが完成した。その様子を見ていた他のグループは、家族で協力しながら、お風呂や靴置き、シャワー等、家にある様々な物を製作する。</p>	  

5.振り返り(振り返りによって得た保育者の気づき)

おうちごっこや普段の生活では意見を言い合って言い合いも多いが、物づくりに関しては意見を受け入れ、協力している姿が多かったように感じる。家族間で良いものを作りたい。本物の家のようにしたい。という気持ちが物づくりを通じて子ども達を協力させたのだと感じる。